

山口県HM講座 2025 演習 1-1 「私の残したい地域文化財(建造物)」調査シート

受講番号	001	氏名	原田正彦
建造物名称	本郷村旧庁舎	用途	村役場
所有者	岩国市	建築年代	1942(昭和 17)年
所在地	岩国市本郷町本郷 1604		
構造形式	建築面積 274.54 m ² 、延床面積 456.15 m ² 、木造 2 階建一部平屋建。 屋根全体は寄棟で、両翼の正面を切妻としている。 外装は下見板張り、上部に白漆喰壁あり。		
特徴	当該建物は、木造 2 階建一部平屋建の庁舎建築である。比較的小規模であるが、階高は高く 2 階半分の高さがある。緩やかなアーチを持つ堂々たる玄関ポーチを正面に据え、左右両翼を少し突出させたシンメトリーで威厳のある外観をなしている。 外装の下見板張りは基本横張りであるが、窓下の腰壁部分は縦張りであり、縦長の窓が 2 連ずつ嵌め込まれるなど、デザイン上の工夫が随所に見られる。玄関正面には、漆喰の鰻絵の装飾がシンボルとして象られている。 構造体や全体のデザインについては大きな変更もなく、内装や建具も竣工当時のものが多数使われており、変更部分も全体のデザインや材質をほとんど損ねていない。全体的にはオリジナルの状態や特徴を大変よく留めている。全国的に見ても、木造庁舎が竣工当時の状態で使用されている例は少なく、その点希少性は高いと言える。		
写真 コメント	 本庁舎の玄関前は山代街道という歴史的な道であり、西照寺から神田の分岐までの 500m ほどの町並みはその街道に沿って多くの町家が並び立つ。それらの多くは入母屋の屋根形状が連なる珍しい歴史的景観を形成している。		
調査・撮影日		作成日	

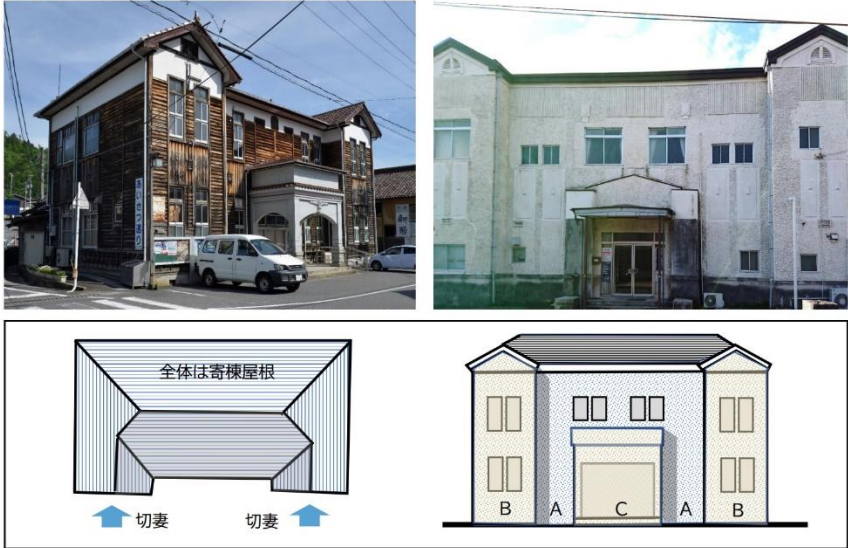
山口県HM講座 2025

演習 1-2

「私の残したい地域文化財(町並み)」調査シート

受講番号	001	氏名	原田正彦
町並み名称	上関・室津の町並み	用途	-
所有者	-	建築年代	江戸末期～明治期
所在地	上関町長島、室津		
特徴	室津半島先端の室津とその対岸に浮かぶ長島の上関は、狭い海峡を挟んで対峙する漁村集落である。いずれも海岸と山間を繋ぐ細い道の両側に家々が建ち並んでいる。 室津では、明治十二年に建設された四階楼がシンボルである。木造四階建寄棟造で、漆喰塗り大壁に縦長窓やコーナーストーンを配した擬洋風建築である。 上関は、朝鮮通信使の歴史を持ち、古くから海上交通の要地として発展した。漆喰壁の窓に黒い縁取りを施した民家が特徴的で、中でも虫籠窓を菱形とした坂田家はこの地区を代表する民家である。		
写真 コメント	 ▲擬洋風建築のシンボル「四階楼」は国指定重要文化財(明治 12 年)  ▲菱形の虫籠窓を持つ坂田家		
調査・撮影日		作成日	

山口県HM講座 2025 演習 2-1 「私の残したい地域文化財(建造物)」比較シート

受講番号	001	氏名	原田正彦
建造物名称	本郷村旧庁舎	用途	村役場
所有者	岩国市	建築年代	1942(昭和 17)年
比較した 建造物 1	[名称] 旧岩国税務署 [資料出展等] 「岩国市史」、「日本近代建築人名総覧」		
写真と特徴	 ▲旧岩国税務署南西側外観(両翼張出の造形に注目) 大正 14(1925)年竣工/税務監督局技手・田中俊郎/セセッションを纏った後期擬洋風		
比較した 建造物 2	[名称] [資料出展等]		
写真と特徴	 [右]両建築共通の立面図。四方A面を基本とし、正面両翼にB面、中央入口にC面が張り出す。シンメトリーでバランスの良い造形がなされている。 [左]両建築共通の屋根伏図。四方A面に乗る寄棟屋根を基本とし、両翼B面の上部は切妻を見せる		